＜要旨＞　学校教育部門作品　　「ふくおか教育論文」

講義形式の一斉授業における学習評価の改善に関する一考察

高等学校公民における一枚ポートフォリオ（OPP）シートの活用を通して

福岡県立筑前高等学校
校長　　真海　誠司

こんな手立てによって…

講義形式の一斉授業において、一枚ポートフォリオシートを用いた授業改善を行った。

こんな成果があった！

授業と評価の一体化が進むとともに、観点別評価の信頼性が向上した。
① 教師の単元設計力・形成的評価力向上
② 観点別評価の効率的な実施の可能性
③ 生徒の学びの望ましい変容

１　考えた

平成 28 年３月の高大接続システム改革会議最終報告では、高等学校教育改革を①教育課程の見直し、②学習・指導方法の改善、教員の指導力の向上、③多面的な評価の充実から推進することが求められている。また、学習指導要領改訂と並行して児童生徒の学習評価に関する検討も行われ、３観点（「知識及び技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）の評価の過程を説明する責任が、学校に求められているといえる。学校における働き方改革も念頭に置きつつ、学習評価の妥当性や信頼性を高める手立てとして一枚ポートフォリオシート（OPP シート）を活用することで、教師の学習評価能力の向上を図ることが可能だと考えた。

２　やってみた

教師自身の学習評価能力育成という観点から、２名の教諭に研究目的や構想を説明し、協力を要請した。その上で、各在籍校での３回の PDCA サイクルに基づく実践を依頼し、成果を検証した。OPP シート活用に当たり手引書の必要を感じたことから、Ｑ＆Ａ（Ａ４判３枚）を作成・配付した。実践中は必要に応じて情報交換を行い、最終的に面接による聴き取り調査を実施して考察を進めた。教師は、OPP シートの活用によって単元を通した生徒の変容を見取るとともに、毎時間の学習履歴を点検することで自己の授業を評価し、適宜、授業計画を見直した。

３　成果があった！

高等学校公民における講義形式の一斉授業に、OPP シートを活用したことで、教師の単元設計力（生徒の理解度に応じ、授業構成を柔軟に変更する能力）と形成的評価力に高まりが見られた。また、OPP シートという成果物を通して、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価を、妥当性と信頼性を確保しながら、効率的に行うことができる可能性が十分にあることが確認できた。さらに、生徒の学習に取り組む意欲が向上し、学習内容を振り返り（自己評価）、まとめる力（思考力・判断力・表現力）が高まることも確認できた。

＜目次＞　学校教育部門作品

講義形式の一斉授業における学習評価の改善に関する一考察

高等学校公民における一枚ポートフォリオ（OPP）シートの活用を通して

１　主題設定の理由 ………………………………… ３
（１）高等学校における観点別学習評価の実態から……… ３
（２）指導要録の改善への対応から……… ４
（３）効率的な評価の必要性から……… ４
（４）目指す教師像から……… ５

２　主題の意味 ………………………………… ５
（１）「講義形式の一斉授業」とは ……… ５
（２）「学習評価の改善」とは ……… ５
（３）「一枚ポートフォリオ（OPP）シート」とは……… ５

３　研究の目標 ………………………………… ６

４　研究の仮説 ………………………………… ６

５　研究の構想 ………………………………… ６

６　研究の実際 ………………………………… ７
（１）稲築志耕館高等学校における取組みの実際と考察……… ７
（２）ひびき高等学校おける取組みの実際と考察……… ９
（３）全体考察 ……… １２

７　成果と課題 ………………………………… １５
（１）研究の成果……… １５
（２）今後の課題……… １５

＜引用文献＞ ……… １６
＜参考文献＞ ……… １６
＜資料＞ ……… １７

＜本文＞　学校教育部門作品

講義形式の一斉授業における学習評価の改善に関する一考察

高等学校公民における一枚ポートフォリオ（OPP）シートの活用を通して

福岡県立筑前高等学校
校長　　真海　誠司

１　主題設定の理由

（１）高等学校における観点別学習評価の実態から

平成 28 年３月に公表された高大接続システム改革会議「最終報告」（以下「最終報告」）では、高等学校教育改革を「三つの観点」（①教育課程の見直し　②学習・指導方法の改善、教員の指導力の向上　③多面的な評価の充実）から推進するように求めている。

このうち、①については、平成 30 年３月に次期の高等学校学習指導要領が告示され（以下「新学習指導要領」）、令和４年度から年次進行で実施されることになっている。

「三つの観点」の②については、課題の発見・解決に向けて生徒が主体的・協働的に学ぶ、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善が進められている。福岡県においても、アクティブ・ラーニングの授業法・評価法の研究開発を目的とした取組み（「福岡県立学校『新たな学びプロジェクト』」）や県教育センターの各種研修会等を通じて、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に対応した情報発信や研修体制が整えられ、高校現場の授業風景も講義一辺倒から、ＩＣＴ機器を活用し教師による説明の時間を短縮し、生徒同士の対話（グループワークやペアワーク）や生徒と教師との対話（質疑応答）を取り入れるなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が着実に推進されている。

「三つの観点」の③に関して、「最終報告」では、「高等学校においては、従前から観点別に学習状況の評価を行うこととされているが、いまだ定着しているとは言い難く、「学力の３要素」をバランスよく評価し、指導の改善に生かすため、高等学校における観点別学習状況の評価を推進する必要がある」と指摘している。この点に関して、本県高等学校の公民科及び地理歴史科の教師に対し行ったアンケート結果（以下「アンケート結果」）によると、観点別学習状況の評価に「取り組んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」と回答した割合が 23%、「どちらかといえば取り組んでいない」「ほとんど又は全く取り組んでいない」と回答した割合が 77%となっており、高等学校における学習評価の改善の取組みが十分とは言えないことが確認された。

高等学校の学習評価については、現行の「知識・理解」「思考・判断・表現」の観点は定期考査（ペーパーテスト）で評価し、「関心・意欲・態度」は提出物の有無や授業中の態度（発表回数や集中度）、ノートのとり方等の形式的な活動で評価していることは問題であるとの指摘がなされてきた（平成 28 年 12 月 21 日　中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」）（以下「答

申」)。もっともな指摘であるが、高等学校の教師の多くは「関心・意欲・態度」の評価を決して誤解しているわけではない。高等学校では、出席日数や学業成績が基準に達していなければ進級・卒業を認めない制度をとっており、学年末に進級・卒業の判定を行う際に１点足りないために原級留置となることもある。その場合、どのような評価を積み重ねてきたのかが厳しく問われることになる。「関心・意欲・態度」の観点の評価については妥当性や信頼性の確保が難しいこともあり、説明責任を果たす必要から、やむを得ず、学習意欲（授業に取り組む姿勢・構え）のうち、定量化できることに限定して評価している面があることは指摘しておきたい。「アンケート結果」でも多くの教師が、「性格や行動面での傾向が一時的に表出された場面」(「答申」）であることに課題を感じつつ、評価基準を設けて提出物（ノートやレポート等）の内容を評価していることがうかがえる。

（２）指導要録の改善への対応から

学習指導要領改訂の動きと並行して、児童生徒の学習評価に関する検討も行われ、平成 31 年３月に「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（文部科学省初等中等教育局長通知)」(以下「改善通知」）が出された。

「改善通知」では、学習評価改善の基本的な考え方として、喫緊の課題である学校における働き方改革を踏まえたうえで、学習評価を児童生徒の学習改善と教師の指導改善につながるものにしていくことで、真に意味あるものに改善することが示された。具体的には、①観点別学習状況の評価を４観点から３観点（「知識及び技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）に改める、②「指導と評価の一体化」を推進するため、指導要録の参考様式に「観点別学習状況」欄を新設し、観点ごとにＡＢＣの３段階で記載する、ことが示された。

特に改善の②は、高等学校の現場にとっては、大きな影響が予想される変更である。総括的な評価である「評定」を算定する基となる観点別学習状況の評価が明示されるということは、３観点の評価が、どのような過程を経て出されたのかを説明する責任が生じたことを意味する。とりわけ、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、評価の妥当性や信頼性を担保する評価方法の開発が急務である。

（３）効率的な評価の必要性から

「改善通知」(平成 31 年３月）では、学習評価について指摘されている課題の一つとして、「教師が評価のための『記録』に労力を割かれて、指導に注力できない」ことを挙げている。さらに学習評価の改善の基本的な方向性の一つとして、喫緊の課題である学校における働き方改革を踏まえて、「これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと」を示している。

高等学校の場合、大規模校では、単位数が少ない教科、科目において、１人の教師が 200～300 人の生徒を担当することも珍しくなく、個々の生徒の学習プロセスを丁寧に見取ることは難しい。現行の「関心・意欲・態度」を定量的に評価するために、提出物や忘れ物の有無や授業中の態度(発表回数や集中度)、ノートのとり方等の形式的な活動を評価することに、教師が多大な時間と労力を割いていることは、先の「アンケート結果」から確認されている。

これに加えて、形成的に「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価することを、高等学校の教師に求めることは、喫緊の課題である学校における働き方改革に逆行するものである。このことから、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点について、「教員の勤務負担軽減を図りながら学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう」（「改善通知」）な評価方法の開発が急務である。

（４）目指す教師像から

（２）でも記したとおり、学習評価を真に意味あるものに改善するためには、児童生徒の学習改善と教師の指導改善につながるものにしていくこと、すなわち指導と評価の一体化が不可欠である。本研究では、指導と評価の一体化を図るうえで、教師に求められる能力として、①「主体的に学習に取り組む態度」を見取る能力、②「単元を貫く本質的な問い」を設定し、単元を設計する能力、③生徒の理解度に応じ、授業構成を柔軟に変更する能力に焦点化して、教師の学習評価者としての能力向上の在り方について研究を進める。

２　主題の意味

（１）「講義形式の一斉授業」とは

教師が主として言葉による説明によって、学習内容を全員の生徒に同時に伝達する授業方法で、基礎的・基本的な知識、概念や理論を効率的に理解させることを主眼に置いている。

（２）「学習評価の改善」とは

高等学校において、観点別学習状況の評価を推進することで、「学力の３要素」をバランスよく評価し、指導の改善と評価の改善を一体として進めることである。

（３）「一枚ポートフォリオ（OPP）シート」とは

一枚ポートフォリオ評価（OPPA）を実践する際に教師が作成して使用するシートのことである。OPPA の提唱者である堀（2013）によれば、OPPA とは「教師のねらいとする授業の成果を、学習者が一枚の用紙（OPP シート）の中に授業前・中・後の学習履歴として記録し、その全体を学習者自身に自己評価させる方法」のことで、「そのシートを用いて学習者が書いた学習履歴に対し、教師がコメントを書き学習の質を高めるとともに、教師は授業の評価と改善を行う」[1]ものである。

OPP シートは、「Ⅰ．単元名タイトル」、「Ⅱ．学習前・後の本質的な問い」、「Ⅲ．学習履歴」、「Ⅳ．学習後の自己評価」の４つの要素[2]から構成される。「Ⅱ．学習前・後の本質的な問い」は、「単元を通して教師がもっとも伝えたい、押さえたい内容を問いにしたもの」[3]で、学習前と学習後で同一の問いにすることで、診断的評価を行うとともに単元を通しての生徒の変容を見取ることができる。また、生徒にとっては「学習による変容を可視的に外化し、自分が変わったという自覚を持つことによって、学ぶ意味や必然性、自己効力感を感得」[4]することができる。「Ⅲ．学習履歴」は、「毎時間、授業終了後、学習者が「授業の一番大切なこと」を記録した内容」で「学習者と教師がそれぞれの自己評価を行い、学習および指導の改善に生かすことを主な目的」[5]としたものである。「Ⅳ．学習後の自己評価」は、「OPP シートの記述内容全体の変容を振り返るもの」[6]で、「Ⅲ．学習履歴」とともに生徒のメタ認知の育成に必要不可欠である。また、OPP シートは「学習結果が断片的でなく、構造化し

た形で把握できる」[7] 点が、ワークシートやノートによる学習記録との決定的な相違点である。

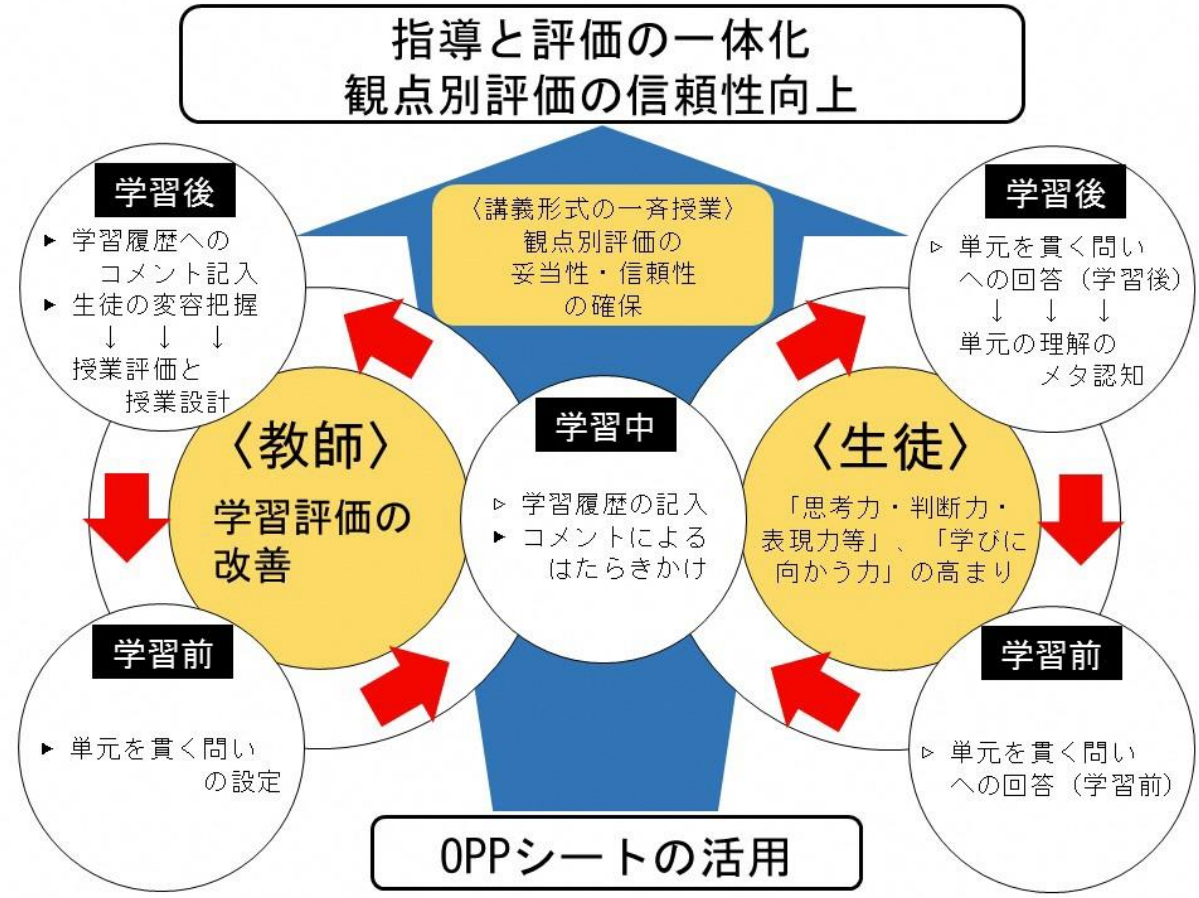
3　研究の目標

高等学校公民の講義形式の一斉授業において、評価を通じた授業改善を進めるための職能開発の手立てとして OPP シートが有効であることを検証するとともに、OPP シートを用いた観点別学習状況の評価の在り方について検討する。

4　研究の仮説

高等学校公民の講義形式の一斉授業において、OPP シートを活用することで、①今までの授業スタイルを大きく変えることなく、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」（現行の「関心・意欲・態度」）などこれまでの授業でも育成を試みてきた資質・能力の育成をより見取ることができるようになるため、教師が指導と評価の一体化をより進めやすくなり、OPP シートが教師の評価者としての能力向上に資するだろう。また、②「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価の妥当性と信頼性が確保され、評価の信頼性を高めることができるだろう。

5　研究の構想



〈図１〉研究構想図

６　研究の実際

本研究に当たっては、筆者が会長を務める福岡県高等学校公民科研究会（公民科教育の研究・促進、会員の資質向上と親和を図る会）の会員のうち、研究の趣旨に賛同し、協力を申し出た２名の教師（福岡県立稲築志耕館高等学校 有安風嘉 教諭、福岡県立ひびき高等学校 中尾杏奈 教諭）に授業実践を依頼した。

OPP シートの導入当初、筆者が協力者と意見交換を行った際、様々な質問や疑問点が出された。このため、筆者は OPP シートの活用に際しての手引書のようなものの必要性を感じ、Ａ４判３枚の「一枚ポートフォリオ（ＯＰＰ）を活用した授業改善に関するＱ＆Ａ」（以下「Ｑ＆Ａ」）を作成し、協力者に配付した（平成 30 年 12 月）。

授業実践開始後、協力者と必要に応じて情報交換を行い、最終的に面接による聴き取り調査を実施して、その結果を基に考察を進めた。なお、有安教諭と中尾教諭は、令和元年８月に開催した全国公民科・社会科教育研究会令和元年度全国研究大会（福岡大会）の「現代社会」「政治・経済」の分科会において、報告資料「一枚ポートフォリオ評価法（OPPA）活用について」を用いて実践報告を行った。

（１）稲築志耕館高等学校における取組みの実際と考察

①　取組みの実際

稲築志耕館高等学校の協力者である有安教諭は、平成 30 年 11 月から令和元年 7 月の間、科目「政治・経済」と科目「現代社会」の授業において、OPP シートを活用した実践を３回のサイクルで行った（表１～３）。

〈表１〉稲築志耕館高等学校における取組み（サイクル１）

期　間（　平成 30 年 11 月～12 月　）

科目名（　政治・経済　）　　単元名（　日本の政治制度と政治参加　）

	こんな成果が出た	こんな課題が残った
教師の姿	○　a 単元の目標や何を教えたいかを具体的に考えるようになった。 ○　b 生徒の記入内容から自分の授業の振り返りができた。	●　生徒の多様な回答をどう評価してよいか分からない。 ●　自分の意図した解釈と違うものを「間違い」としていいのか迷った。 ●　意図した OPP シートの使い方がなされていない。
生徒の姿	○　c 授業の最後に本時の学習を振り返る習慣が付いた。 ○　d 自分の考えを「書くこと」に対する抵抗感が減った。	●　学習履歴に何を書いてよいか分からない。

このように改善した
◎　e シートの書式の変更（枠の大きさ、問いかけ方など） ◎　f 毎時間の展開の見直し（前時の復習、学習課題の提示、展開、まとめ、OPP シートによる本時の振り返り）

〈表２〉稲築志耕館高等学校における取組み（サイクル２）

期　間（　平成 31 年４月～７月　）

科目名（　政治・経済　）　　単元名（　日本国憲法と基本的人権　）

	こんな成果が出た	こんな課題が残った
教師の姿	○　「単元を貫く問い」から、それに関連したアクティブ･ラーニングを考えるようになった。 ○　a 観点別評価を行う上で、「関心・意欲」の観点を測りやすくなった。 ○　「考えて書く」というアクティブ・ラーニングが無理なく毎時間保障される。	●　b　実施クラスが増加してコメントを返しきれなくなった。 ●　c　関心面での評価は低いが、思考面での評価の高い生徒を、総合的にどう評価するか迷った。
生徒の姿	○　抽象的､概念的な問いに答える力がついた。 ○　d　授業の振り返りが毎時間のルーティンになった。	

このように改善した
◎　OPPA をアクティブ・ラーニングとして考えるようになってから、無理に大がかりなアクティブ・ラーニングをしなくても、安心できるようになった。 ◎　評価の観点を「関心・意欲」と「思考・判断・表現」に分けることを検討する。ただし、本来 OPPA は、５段階などの成績に関する評価をしようとするものではないのではないかという疑問もある。 ◎　コメントは無理に返そうとせず、授業中の話題として取り上げ回答する。

〈表３〉稲築志耕館高等学校における取組み（サイクル３）

期　間（　平成 31 年４月～７月　）

科目名（　現代社会　）　　単元名（　環境・エネルギー、医療技術　）

	こんな成果が出た	こんな課題が残った
教師の姿	○　授業の流れが一定になった(小テスト→展開→OPP シート記入)。 ○　課題解決型の問いを作れるようになった	●　学習前・後の問いを変えているが、変容をどのように見取るか迷っている。
生徒の姿	○　授業規律ができた(実施前は授業終了５分前になると教材を片付けていた)。 ○　a OPP シートの記述量がだんだんと増加した。	●　既習知識のない生徒は学習前の問いに答えられない。 ●　「一番大事なこと」と「一番印象に残ったこと」の違いが理解できていない。

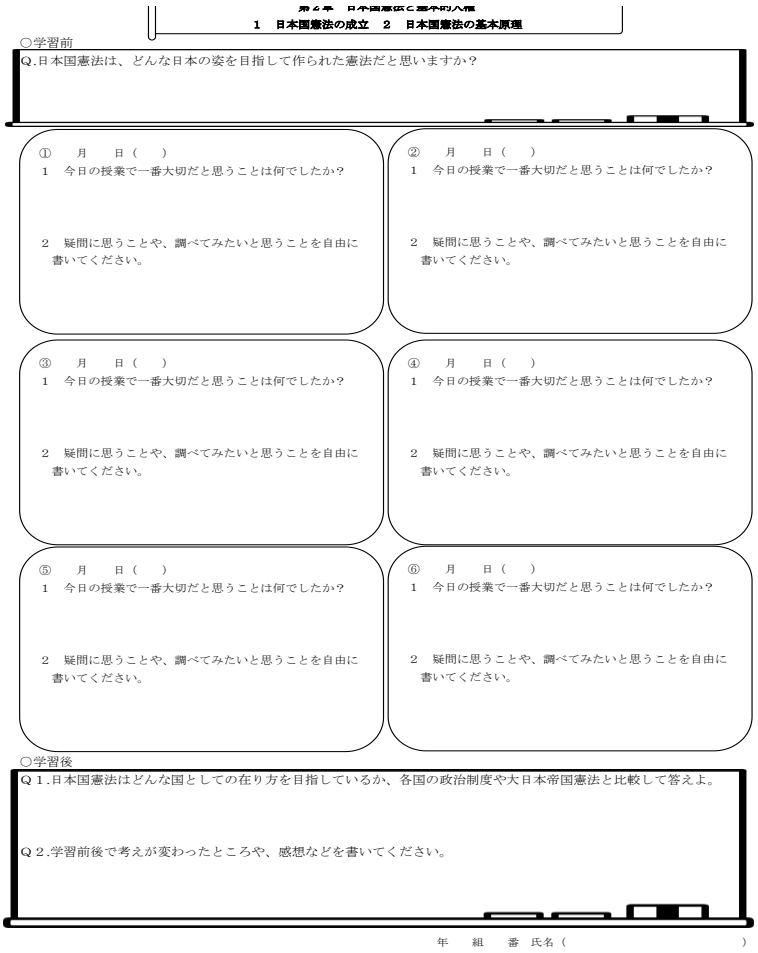
今後の課題

◎　生徒の学習到達度に合わせた本質的な問いの作成 ◎　学習課題（めあて）の明確化 ◎　評価物として OPP シートを使う際の評価基準の明確化（現在は記述量や内容から、「関心・意欲」のみ評価）

② 考察

有安教諭は、OPP シートを授業で活用することで、単元の目標や授業ごとの学習課題を具体的に掘り下げて考えるようになったり、学習履歴の記入内容から自分自身の授業を振り返ったりすることで、授業展開の見直しを図るようになった（表１下線部 a、b、f）。また、OPP シートの導入当初は、学習履歴に「授業の内容で重要だと思ったこと」のみを記入させていたが、「Ｑ＆Ａ」を参考にして、「関心・意欲」の高まりを見取るために、「疑問に思ったこと・もっと調べたくなったこと」を任意で書かせる欄を設ける改善を行った（表１下線部 e、図２）。このことにより「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価がより行いやすくなった（表２下線部 a）。これらのことから、OPP シートの活用は「４　研究の仮説」の①及び②の点で効果があることが確認できた。ただし、実施クラスが増加すると、授業ごとに生徒にコメントを返すＫＲ（結果に対する評価）が多忙感の高まりにつながること（表２下線部 b）や総括的評価を行う際の難しさ（表２下線部 c）が課題として残った。

〈図２〉「政治・経済」の OPP シート（Ｂ４サイズ）


第２章　日本国憲法と基本的人権
１　日本国憲法の成立　２　日本国憲法の基本原理
○学習前
Q.日本国憲法は、どんな日本の姿を目指して作られた憲法だと思いますか？
①　月　日（　）
１　今日の授業で一番大切だと思うことは何でしたか？
２　疑問に思うことや、調べてみたいと思うことを自由に書いてください。
②　月　日（　）
１　今日の授業で一番大切だと思うことは何でしたか？
２　疑問に思うことや、調べてみたいと思うことを自由に書いてください。
③　月　日（　）
１　今日の授業で一番大切だと思うことは何でしたか？
２　疑問に思うことや、調べてみたいと思うことを自由に書いてください。
④　月　日（　）
１　今日の授業で一番大切だと思うことは何でしたか？
２　疑問に思うことや、調べてみたいと思うことを自由に書いてください。
⑤　月　日（　）
１　今日の授業で一番大切だと思うことは何でしたか？
２　疑問に思うことや、調べてみたいと思うことを自由に書いてください。
⑥　月　日（　）
１　今日の授業で一番大切だと思うことは何でしたか？
２　疑問に思うことや、調べてみたいと思うことを自由に書いてください。
○学習後
Ｑ１.日本国憲法はどんな国としての在り方を目指しているか、各国の政治制度や大日本帝国憲法と比較して答えよ。
Ｑ２.学習前後で考えが変わったところや、感想などを書いてください。
年　組　番　氏名（　　）

一方、生徒は、毎回 OPP シートの学習履歴を記入するため、授業内容を振り返る習慣が身に付き（表１下線部 c、表２下線部 d）、自分の考えを文章で表現することへの苦手意識が薄らいだことが見取れる（表１下線部 d、表３下線部 a）。このことから、OPP シートの活用は、生徒の「思考力・判断力・表現力等」や「主体的に学習に取り組む態度」といった資質・能力を育む効果もあることが確認できた。

（２）ひびき高等学校における取組みの実際と考察

① 取組みの実際

ひびき高等学校の協力者である中尾教諭は、平成 30 年 10 月から令和元年７月の間、科目「倫理」の授業において、OPP シートを活用した実践を３回のサイクルで行った（表４～６）。

〈表４〉ひびき高等学校における取組み（サイクル１）

期　間（　平成 30 年 10 月～12 月　）

科目名（　政治・経済　）　　単元名（　日本国憲法　）

	こんな成果が出た	こんな課題が残った
教師の姿	○　a「単元を貫く問い」「毎回の授業の問い」の問い立てをするため、学習指導要領（特に次期）をよく読み込むようになった。 ○　b　生徒が「書こう」「答えよう」と思う問い立てをするために、問い方について深く検討するようになった。 ○　c　問いの答えを生徒が導き出しやすいように、授業での説明の仕方や順序が変わった。 ○　「何が言いたいのか」を吟味したうえで黒板や ICT で明示するようになった。	●　毎回、問い立てを行うので、１枚のシートを仕上げるのにかなり時間を要した。 ●　本校は、90 分授業（休憩なしで 45 分を連続２コマで行う）のため、学習履歴を１日１マスにするのはもったいない。
生徒の姿	○　d　本来、堀（2013）が提唱する OPP シートは毎回の学習履歴に「授業の一番大切なこと」を書かせるという原則だが、変更（オリジナルに加工）した結果、生徒は OPP シートを授業の到達目標が達成できたかどうかを測るツールとして活用するようになった。 ○　e アウトプット予告（授業冒頭、OPP シートに本時の問いを書かせる）を行うことで、生徒は目的意識をもって授業に臨むようになった。 ○　90 分の中で２回、OPP シートの記入というアウトプットの作業を取り入れることで集中力が上がった。	●　授業に出席したり、出席しなかったりする生徒は、継続的な記述がなく、思考の深まりを見取りにくい。 ●　毎回の学習履歴を授業冒頭の「問い」に対する「答え」にすると、その「問い」の「答え」が授業の中で明確に出ずに、次回の授業に持ち越しになった場合、その日は、学習履歴が記入できない。

このように改善した
◎　f「OPP シートを手立てとする授業デザイン」を効率的に行うために ICT のより積極的な活用、授業計画の見直しを行った。 ◎　ある講座で生徒の反応が芳しくなかった場合、別の講座では「問い」の書きぶり等を変えた。 ◎　毎回の学習課題としての「問い」や「単元を貫く問い」の問い立てには、学習指導要領（現行、次期）の文言をなるべく噛み砕きながら活用した。

〈表５〉ひびき高等学校における取組み（サイクル２）

期　間（　平成 31 年４月～６月　）

科目名（　政治・経済　）　　単元名（　現代国家と民主政治　）

	こんな成果が出た	こんな課題が残った
教師の姿	○　ａ 観点別評価を授業で実践できるようになった。 ○　ｂ ４段階評価（Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ）をして毎回返却することは、思いの外、生徒は肯定的に受け止めていることから、教師自身も観点別評価、ルーブリック評価の研究を行うようになった。 ○　ｃ　毎回の問いはパワーポイントで提示するなど、生徒に OPP シートの習慣をつけさせるために ICT を活用した。	●　ｄ　授業冒頭での問いの提示→授業→問いの答えの記入という授業展開にかなり時間がかかり、授業進度に遅れが出ている。
生徒の姿	○　ｅ 昨年度末のアンケート結果を生かし、生徒がより書きやすい OPP シートを作成した結果、生徒も OPPA に積極的に参画するようになった。 ○　ｆ 授業の振り返りのために、よくノートを見返すようになったり、よくノートを取るようになったりした。	●　生徒によって書くスピードに違いがあるため、授業の終わり 10 分では記入の時間が足りないことがある。

このように改善した
◎　ｇ　アンケートを２回実施し、生徒の意見も OPP シートに反映した。 ◎　ｈ　「知識・理解、技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」の３観点のルーブリックを作成し、Ｓ～Ｃの評価基準を教師も生徒も納得できるものに改善した。

〈表６〉ひびき高等学校における取組み（サイクル３）

期　間（　平成 31 年４月～７月　）

科目名（　政治・経済　）　　単元名（　日本国憲法と基本的人権　）

	こんな成果が出た	こんな課題が残った
教師の姿	○　ａ Ｓ～Ｃの評価に明確な基準を設け、生徒に提示し、ルーブリック評価を始めた。	
生徒の姿	○　毎回の学習履歴を「答え」から「一番大切だと思ったこと」に変更したところ、本時の内容を受けてどう感じたかを書くようになった。	●　毎回の学習履歴を「答え」から「一番大切だと思ったこと」に変更したところ、主観に偏った記述をするようになった。

今後の課題

◎　「単元を貫く問い」を、思考の深まりを教師が見取ったり、生徒が振り返ったりできる問いにブラッシュアップする方法の検討

◎　Ｓ～Ｃの評価の妥当性と信頼性の検討

◎　学習履歴に「一番大切だと思うこと」を書かせることとその日の授業で考えてほしいポイントを「問い」として提示し、その「答え」を書かせることのどちらのパターンが適切かの検討

② 考察

〈表７〉評価基準

評価基準

	S	A	B	C
知識・理解 技能	「一番大切だと思ったこと」に選んだ内容を、理由とともに具体的に記述している。	「一番大切だと思ったこと」を具体的に記述している。	授業の内容と外れている、あるいは、誤った認識を書いている。	何も書いていない。
関心・意欲 態度	自分の考えや、今日の授業で得た知識を今後どのように活用するかについての意気込みを書いている。	自分の考えや、今日の授業を今後にどう結び付けていくかについては書いていない。	自分の考えや今日の授業を今後にどう結び付けていくかについては書いていない。	何も書いていない。
思考・判断 表現	具体性があり、読み手にとって分かりやすい。	抽象的な記述にとどまっていて、読み手に解釈を委ねている。	記述内容が授業の学習内容と異なっている。	何も書いていない。

中尾教諭は、生徒の学習への集中度を高めることをねらい、授業の冒頭に本時の学習課題を「問い」として示し、その「問い」に対する「答え」を学習履歴に記入させる方法を取った（表４下線部 d)。さらに、ルーブリックを用いて学習履歴を３観点で評価する取組みも行った(表５下線部 a、表６下線部 a)。生徒に対するアンケートの結果、学習履歴の段階別評価を生徒が肯定的に受け止めたこと（表５下線部 b）や、生徒の学習に対する意識が変容したこと（表４下線部 e）から手応えを感じ、評価する側も生徒も納得できるような観点別評価やルーブリック作成の研究を行うようになった（表５下線部 h、表７)。このことから、OPP シートの活用は「４　研究の仮説」の②の点で効果があることが確認できた。また、単元構成や授業設計を行うに当たって、小・中学校に比べ高等学校の教師にはやや馴染みが薄いといわれる「学習指導要領解説」を十分に読み込んで、問い立てを工夫したり（表４下線部 a、b、c)、複数回にわたって生徒にアンケート調査を行い、その結果を活用して OPP シートの改善を図ったり（表５下線部 e)、生徒に OPP シートの記入時間を十分に保証すると授業進度が遅くなるため（表５下線部 d)、ICT を活用して授業時間の効率化を図る（表４下線部 f、表５下線部 c）など、OPP シートの活用は「４　研究の仮説」の①の点でも効果があることが確認できた。

一方、生徒も、授業に目的意識を持って臨むようになったり（表４下線部 e、表５下線部 e)、授業内容を振り返る習慣が身に付いたり（表５下線部 f）したことが見取れることから、OPP シートの活用は、「生徒の「思考力・判断力・表現力等」や「主体的に学習に取り組む態度」といった資質・能力を育む効果もあることが確認できた。

今後の課題としては、(ｉ）生徒の思考の深まりを教師が見取り、生徒が適切にメタ認知（自己評価）できるような、妥当な妥当性と信頼性を兼ね備えたルーブリックの作成、（ⅱ）学習履歴に「一番大切だと思うこと」を書かせることと、毎回の授業の冒頭で本時の授業で生徒に考えてほしいポイントを「問い」として提示し、その「答え」を書かせることのどちらの方がより深い思考力を育成することにつながるかの検討、が残った。

（３）全体考察

「４　研究の仮説」で示した①、②に着眼して、OPP シートの活用が、教師の評価者としての能力向上や観点別評価の信頼性向上につながったかどうかを中心に考察する。

① 教師の評価者としての能力向上について

OPP シートの活用に当たって、そのよさを引き出すためには、授業者による明確な単元構成と授業設計が不可欠である。この点に関して、２名の協力者はいずれも入念な授業準備が習慣化され、「１主題設定の理由（４）目指す教師像から」の「②『単元を貫く本質的な問い』を設定し、単元を設計する能力」が向上したことが見取れる。また、「１

主題設定の理由（４）目指す教師像から」の「③生徒の理解度に応じ、授業構成を柔軟に変更する能力」の向上についても、OPP シートの学習履歴の記述内容から毎時間の生徒の理解状況を確認し、それに合わせて授業内容を修正するなどの姿が授業実践から見取れることから、OPP シートの活用が授業改善に効果があることが確認できた。

また、稲築志耕館高等学校の実践において、今後の課題として残された、「実施クラスが増加すると、授業ごとに生徒にコメントを返すＫＲ（結果に対する評価）が多忙感の高まりにつながる」点については、生徒の多くが一番大切なことを的確に回答していれば、それらの生徒には、合格の記号（例えば、赤ペンのマル印）をつける程度にし、的外れなことを書いた生徒のみにその旨のコメント（あるいは記号）を返してやれば十分であろう。ただし、もし多くの生徒の回答が的外れならば、教師の指導に問題があったと考えられるので、次の授業のはじめに前時の復習を短時間行う必要がある。この場合も、生徒の多くにはコメントを記入する必要はないので、いずれにせよ効率的な形成的評価が可能となる。

② 観点別評価の信頼性向上について

本研究の主張は、高等学校公民科の学習において、その多くの時間を占めるであろう講義形式の一斉授業において、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」（現行の「関心・意欲・態度」）の観点別評価について、妥当性と信頼性を担保しつつ効率的に行う方策を開発することである。OPP シートの活用によって、学習履歴や単元を貫く本質的な問いに対する記述から、思考力の発揮や関心・意欲の高まりは見取れることが確認できたものの、段階的に評価する適切な方法は見いだせなかった。この点については、例えば、毎時間の学習履歴の記述量と記述内容の分析から、内容が適切で一定の分量が記述されていれば「おおむね満足できる（B）」状況、疑問や批判的思考の記述が多く見られたときは「十分満足できる（A）」状況と評価することが考えられる。具体的な運用としては、次の資料１と資料２のような方法が考えられるが、どの程度の効果があるかは、今後の授業実践による検証を期待している。

〈資料１〉「Ⅲ．学習履歴」の評価方法の具体例（「Ｑ＆Ａ」から抜粋）

①毎時間の授業の最後５分程度をとって、一番大切なことを記入させ、シートを回収する。
②記入した内容が的確であれば「赤の○」、答えようとする意欲は見られるものの内容が的外れなものは「？」などと簡易な記号で示す。ただし、自己肯定感を損なわないよう「×」は避ける。少人数の選択授業等であれば、コメントを書いてもよい。
③次の授業の冒頭に返却したのち、授業中や最後の５分を使って、生徒は書き直してもよい。ただし、書き直すときは消しゴムや修正テープを使わずに、例えば青ペン等で見え消しするように決めておく。なお、書き直しの強制はしないこと。
④③について、次の授業の終了時に回収後、書き直しの内容が的確ならば「赤の○」とする。
⑤学習履歴を記入する意欲がなく空白である、あるいは記入しても不適切（いい加減）であることが、複数回以上あった場合は、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の２つの観点の評価が「Ｃ（努力を要する）」になる可能性があることを直接生徒

に伝え、改善するように指導する。

⑥「疑問に思ったこと・もっと調べたくなったこと」の記入は任意とし、空欄の場合、教師は何も評価を返さない。何らかの記入があり、内容が適切ならば、例えば「Ｇｏｏｄ！」などと書いて返す。

⑦この単元の「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の２つの観点の総括的な評価は、例えば「赤の○」の個数が授業回数の６割以上ならば「Ｂ（おおむね満足できる)」、６割未満ならば「Ｃ（努力を要する)」とする。「赤の○」の個数が８割以上かつ「Ｇｏｏｄ！」の個数が一定数（評価基準を事前に設定し生徒にも周知しておく）以上あれば、「Ａ（十分満足できる)」とする。

⑧①～⑦の手順については、約束事として事前に生徒に周知する。評価基準も事前に生徒に周知する。

〈資料２〉「Ⅳ．学習後の自己評価」の評価方法の具体例（「Ｑ＆Ａ」から抜粋）

生徒にとっては、完成したＯＰＰシートを見返して、単元の学習を振り返ることで、自己評価能力（メタ認知能力の一部）や自己有用感を高めることがねらいです。したがって、教師は、生徒の内面を外化（見える化）して評価するというよりは、教師自身の指導の成果を生徒の姿の変容を通して確認し、自分の行った授業に対する評価と受け止め、さらなる授業改善の契機とすべきでしょう。

なお、「関心・意欲・態度」に代わる新しい観点である「主体的に学習に取り組む態度」については、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」があると整理されている（「児童生徒の学習評価の在り方について（報告)」中央教育審議会　平成 31 年 1 月 21 日」)。この点については、「観点の名称の変更に伴い、観点の内容が一部変化したことに注意すべきである。新しい観点では、自らの学習活動について自分で認知し、自己コントロールしていく能力、すなわちメタ認知能力が含まれていることに注意すべきである。そのためには、学習の状況を児童生徒自身が自ら振り返る自己評価が必要となる」との指摘があり[8)]、「見通し」や「振り返り」を通して、生徒が学習プロセスを意識することができる OPP シートは、「主体的に学習に取り組む態度」の観点を評価する際の妥当性のあるツールであるといえるだろう。さらに、学習履歴に「一番大切なこと」以外に、「疑問に思ったこと・もっと調べたくなったこと」の記入欄を設けるなどの工夫によって、学習を通して高まった、社会的事象への「関心」や課題追究や探究への「意欲」の観点を評価することもできることが今回の研究で確かめられた。

③　生徒の「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力」等の資質・能力の育成について

今回、直接的な研究対象とはしていないが、OPP シートの活用は、生徒の「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力」の育成に効果があることが確認できた。これは、２名の協力者の授業実践のいずれにおいても生徒の姿が好ましい方向に変容したことから判断できる。今後は、いかにして質の高い「単元を貫く本質的な問い」や毎回の

学習課題（本時のめあて）を作るかということが課題の一つとなるだろう。

この点に関して、科目「政治・経済」の場合、現代の政治や経済の仕組み（システム）に関する知識を得る中で、課題を見出し、その解決策を政策レベルで考察（科目「現代社会」では、自己の在り方生き方に引き付けて考察）することから、例えば、現代日本の政治分野の単元であれば、「単元を貫く本質的な問い」として、「今の日本の政治の仕組みや問題になっていることについて、あなたが知っていることを書きましょう」という問いが考えられる。この問い立ての場合、ただ漠然と「政治について知っていること」と問うのではなく、「仕組みや問題点」のように、ある程度具体的に内容を指定してやることで、生徒は答えやすくなるだろう。また教師も、既習事項の定着度や生徒の時事問題に対する関心度を知ること（診断的評価）が可能となる。

また、ひびき高等学校の実践において、今後の課題として残った「学習履歴に『一番大切だと思うこと』を書かせること」と「毎回の授業の冒頭で本時の授業で生徒に考えてほしいポイントを『問い』として提示し、その『答え』を書かせること」のどちらの方がより深い思考力を育成することにつながるかという点については、学習課題（本時のめあて）に沿って学習した内容の中から条件に当てはまることを書かせるという点において、両者に本質的な違いはない。それよりは、むしろ、「今日の授業で大切だと思うこと」と「今日の授業で『一番』大切だと思うこと」を書かせることの違いの方が大きいだろう。

「今日の授業で大切だと思うこと」を書くように指示した場合、生徒は、情報の重要度を比較することなく、板書事項をそのまま書き写すことが考えられる。ところが、「一番」と限定することで、生徒は学習内容から必要な情報を取り出し、比較したり分類したりという「思考」を行い、その中から最も重要度が高いと「判断」したことを記述（「表現」）する。つまり、条件を示し、それに合致するものを選択させ答えさせることで、思考力・判断力・表現力を発揮させることができる。さらに、生徒に比較したり分類したりしたことを要約して表現させる際に、教師が「結局」や「要するに」といった言葉（接続詞的に使う副詞）を使って問いかけることも「思考力・判断力・表現力」を育成する上で効果が期待できるだろう。

7　成果と課題

（１）研究の成果

本研究を通して、次のような成果が明らかになった。

○　OPP シートを活用することで、教師の単元設計力（生徒の理解度に応じ、授業構成を柔軟に変更する能力）と形成的評価力が高まった。

○　OPP シートを用いて、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の観点別評価を、妥当性と信頼性を確保しながら、効率的に行うことができる可能性が十分にあることが確認できた。

○　OPP シートを活用することで、生徒の学習に取り組む意欲が向上し、学習内容を振り返り（自己評価）、まとめる力（思考力・判断力・表現力）が高まった。

（２）今後の課題

● 観点別評価の妥当性を高める OPP シートの形式（特に学習履歴の記入方法）の検討及び信頼性を高める評価基準の作成

● OPPA に関する公民科研究会のデータベース構築

効果的な単元設計（単元構成と学習前・後の本質的な問い）とそれに対応した OPP シートやルーブリック、学習履歴に対し授業者が書くコメントの文例などを、福岡県高等学校公民科研究会で共有することで、学校における働き方に過度な負担をかけることなく、教師の指導力と評価力の向上に資することができることから、データベースの構築が急がれる。

＜引用文献＞

１）堀哲夫（2013）『教育評価の本質を問う　一枚ポートフォリオ評価ＯＰＰＡ　一枚の用紙の可能性』東洋館出版社　ｐ.21～22

２）同上書、ｐ.23

３）同上書、ｐ.191

４）同上書、ｐ.86

５）同上書、ｐ.187

６）同上書、ｐ.188

７）同上書、ｐ.33

８）市川伸一編（2019）『2019 年改訂　速解　新指導要録と「資質・能力」を育む評価』ぎょうせい、ｐ.19

＜参考文献＞

・梶田叡一（2010）『教育評価』有斐閣双書

・今野喜清・新井郁男・児島邦宏編（2003）『新版学校教育辞典』教育出版

・辰野千壽・石田恒好・北尾倫彦監修（2006）『教育評価事典』図書文化社

・小川賀代・小村道昭編著（2012）『大学力を高めるｅポートフォリオ　エビデンスに基づく教育の質保証を目指して』東京電機大学出版局

・森分孝治・片上宗二編集（2008）『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書出版

・高大接続システム改革会議「最終報告」（平成 28 年３月 31 日）

・国立政策研究所（2017）平成 28 年度プロジェクト研究調査研究報告書　資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究　報告書５『資質・能力の包括的育成に向けた評価の在り方の研究』

・高等学校学習指導要領（平成 30 年３月 30 日告示）

・「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（中央教育審議会教育課程部会　平成 31 年 1 月 21 日）

・平成 31 年３月 29 日付け 30 文科初第 1845 号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」

＜資料＞　一枚ポートフォリオ（ＯＰＰ）を活用した授業改善に関するＱ＆Ａ

2018/12/4　（真海作成）

Ｑ１　一枚ポートフォリオ（以下ＯＰＰ）を授業で使う目的は何ですか。

Ａ１　公民科の授業時間の半分以上を占めるであろう講義形式の一斉授業において、

①知識の習得にとどまらず、生徒の「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に取り組む態度」を育成できること

②今までの授業スタイルを変えることなく、ちょっと一工夫、一手間かけるだけで、指導と評価の一体化（形成的評価）が効率的に行えること

③観点別評価、特に「思考力・判断力・表現力」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価が客観的に行えること

を実証するのが目的です。

Ｑ２　ＯＰＰで使用するシートの大きさと構成を教えてください。

Ａ２　まず、用紙の大きさに決まりはありません。単元の学習終了後、生徒が学習の記録（ポートフォリオ）として保管しやすいように配慮するとよいでしょう。

次に、基本的な構成は次の図のとおりです。

なお、【学習履歴】には、「今日の授業で一番大切だと思うこと」とは欄を分けて、「今日の授業で疑問に思ったこと・もっと調べたくなったこと」を記入できる欄を設けましょう。

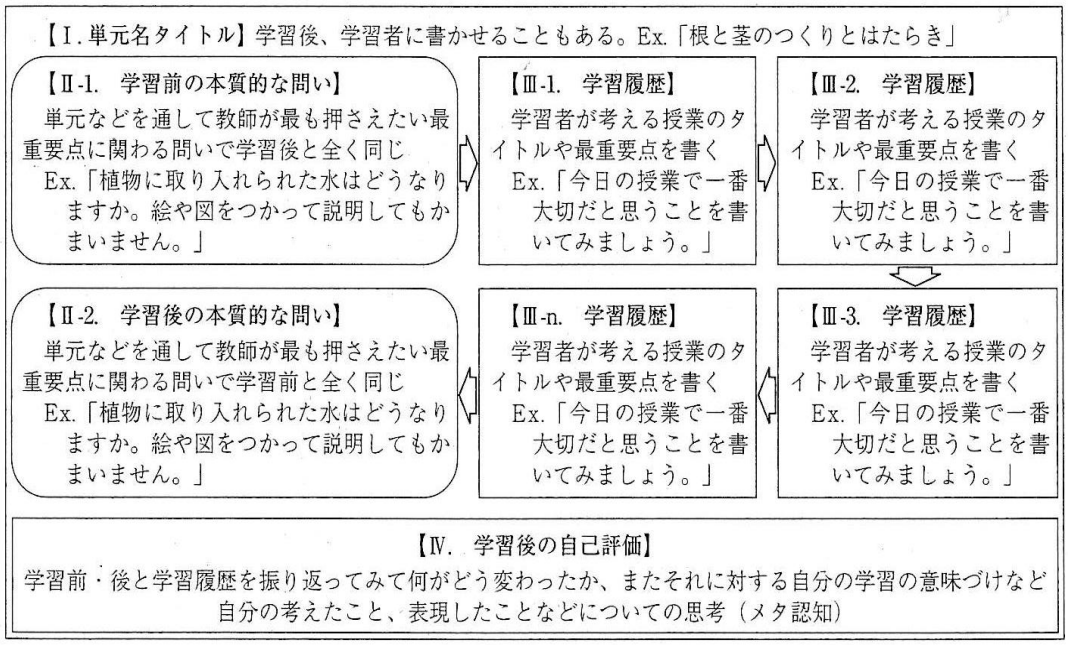


図1-2　OPP シートの基本的構成要素と骨子

堀　哲夫『教育評価の本質を問う　一枚ポートフォリオ評価ＯＰＰＡ　一枚の用紙の可能性』（東洋館出版社　2013 年）23 ページから転載

Ｑ３　【Ⅱ　学習前（学習後）の本質的な問い】がなかなか思い浮かびません。どうすればよいでしょうか。

Ａ３　難しく考えすぎていませんか。論述試験の問題文ではないので、もっと気楽に捉えましょう。「政治・経済」の場合、現代の政治や経済の仕組み（システム）に関する知識を得る中で、課題を見出し、その解決策を政策レベルで考察します（ちなみに「現代社会」では、自己の在り方生き方に引き付けて考察する）。ですから、例えば現代日本の政治分野の単元であれば、「いまの日本の政治の仕組みや問題になっていることについて、あなたが知っていることを書きましょう」というくらいでよいでしょう。その際、ただ漠然と「政治について知っていること」と問うのではなく、「仕組みや問題点」のように、ある程度具体的に内容を指定してやることで、生徒は答えやすくなります。また教師も、既習事項の定着度や生徒の時事問題に対する関心度を知ることが可能となります（事前的評価）。

Ｑ４　【Ⅲ　学習履歴】に「今日の授業で大切だと思うこと」を書かせたら、板書事項をそのまま書き写していて、どう評価してよいか迷いました。どうすればよいでしょうか。

Ａ４　まず、学習履歴に書かせるのは「授業で一番大切」なことです。授業で取り扱う内容はどれも大切なことですが、「一番」と限定することで、生徒は学習事項の内容を比較、検討するという思考を行い、最も重要度が高いと判断したことを記述します（表現）。つまり、条件を示し、それに合致するものを選択させ答えさせることで、思考力・判断力・表現力を発揮させることができるわけです。

Ｑ５　「指導と評価の一体化」について、もう少し詳しく説明してください。

Ａ５　前述のＡ４で、生徒が「授業で一番大切」なことを選び出すためには、教師自身が一番大切なことを念頭に置いて授業を行い、そのことを生徒にも明確に示すことが求められます。具体的には、授業の導入で「今日のめあて」（「めあて」という語に違和感がある場合は、「テーマ」や「ねらい」などと置き換えればよいでしょう）を板書等で明示し、展開かまとめの段階で、一番大切なことを大多数の生徒が「なるほど」「わかった」と納得する場面を作ります。例えば、「今日のテーマ」を「なぜ社会保障費は膨張を続けるのか？」のように疑問文にすれば、その解答を簡潔に板書で示せばよいでしょう。

生徒の多くが一番大切なことを的確に答えていれば、的外れなことを書いた生徒のみにその旨のコメントを返してやればよいでしょう。しかし、もし多くの生徒の答えが的外れならば、教師の指導に問題があったと考えられるわけですから、次の時間のはじめに前時の復習を短時間行う必要があるでしょう。

このように授業中・授業後や小単元の終了時点といったスモールステップで、生徒に評価を返したり（心理学でいうところのＫＲ、「結果に対する評価」）、教師自身が授業を改善したりすることを「指導と評価の一体化」あるいは「形成的評価」といいます。

Ｑ６　【Ⅲ　学習履歴】の評価の仕方を具体的に教えてください。

Ａ６　ちょっと一手間掛かりますが、次のような手順で行うのがよいでしょう。

①毎時間の授業の最後５分程度をとって、一番大切なことを記入させ、シートを回収する。

②記入した内容が的確であれば「赤の○」、答えようとする意欲は見られるものの内容が的外れなものは「？」などと簡易な記号で示す。ただし、自己肯定感を損なわないよう「×」は避ける。少人数の選択授業等であれば、コメントを書いてもよい。

③次の授業の冒頭に返却したのち、授業中や最後の５分を使って、生徒は書き直してもよい。ただし、書き直すときは消しゴムや修正テープを使わずに、例えば青ペン等で見え消しするように決めておく。なお、書き直しの強制はしないこと。

④③について、次の授業の終了時に回収後、書き直しの内容が的確ならば「赤の○」とする。

⑤学習履歴を記入する意欲がなく空白である、あるいは記入しても不適切（いい加減）であることが、複数回以上あった場合は、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の２つの観点の評価が「Ｃ（努力を要する）」になる可能性があることを直接生徒に伝え、改善するように指導する。

⑥「疑問に思ったこと・もっと調べたくなったこと」の記入は任意とし、空欄の場合、教師は何も評価を返さない。何らかの記入があり、内容が適切ならば、例えば「Ｇｏｏｄ！」などと書いて返す。

⑦この単元の「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の２つの観点の総括的な評価は、例えば「赤の○」の個数が授業回数の６割以上ならば「Ｂ（おおむね満足できる）」、６割未満ならば「Ｃ（努力を要する）」とする。「赤の○」の個数が８割以上かつ「Ｇｏｏｄ！」の個数が一定数（評価基準を事前に設定し生徒にも周知しておく）以上あれば、「Ａ（十分満足できる）」とする。

⑧①～⑦の手順については、約束事として事前に生徒に周知する。評価基準も事前に生徒に周知する。

Ｑ７　【Ⅳ　学習後の自己評価】は、どの観点で、どのような手順で評価すればよいでしょうか。

Ａ７　Ｑ２で紹介した図「ＯＰＰシートの基本的構成要素と骨子」にもあるように、生徒にとっては、完成したＯＰＰシートを見返して、単元の学習を振り返ることで、自己評価能力（メタ認知能力の一部）や自己有用感を高めることがねらいです。したがって、教師は、生徒の内面を外化（見える化）して評価するというよりは、教師自身の指導の成果を生徒の姿の変容を通して確認し、自分の行った授業に対する評価と受け止め、さらなる授業改善の契機とすべきでしょう。

※このＱ＆Ａは、次の文献を参考に作成しました。

堀哲夫（2013）『教育評価の本質を問う　一枚ポートフォリオ評価ＯＰＰＡ　一枚の用紙の可能性』東洋館出版社